

ミヨウコウジ 妙廣寺 羽咋郡堀松に在つて日蓮宗に屬する。元和中日善の草創に係る。

ミヨウコウジリヨウ 妙光寺領 康正二年造内裏段錢並國役付に、『四貫四百七十文、妙光寺領賀州豊田段錢』とあり、親元日記文明十年六月十五日の條にも、『中村次郎右衛門尉俊貞妙光寺領賀州豊田領家代官職事云々。』とある。豊田は石川郡であり、妙光寺は山城葛野郡に在る。

ミヨウコクジ 妙國寺 金澤高道町に在つて、日向山と號し、日蓮宗に屬する。慶長十九年日全の建立。境内の大黒堂は、當寺十一代孝壽院日龜の時初めて堂宇を建立したといはれる。寺内に宮崎友禪の墓と稱するものがあるが、偽蹟であらう。

ミヨウコクジ 妙國寺 鹿島郡小島にあつて、日蓮宗に屬する。延徳二年日調の開山といふ。

ミヨウゴンジ 妙嚴寺 珠洲郡鶴岡に在つて、眞宗東派に屬する。山號は丈六山。もと西方寺村(今權原)に在つて天台宗西方寺と稱してゐたが、永享中住持圓景本願寺巧如に歸依して、名を正徹と改め、寺を妙嚴寺といひ、次いで鶴岡に移り、天正十一年祐恩の時、前田利家から二十五俵の地を賜ひ、本郡一派の觸頭を命ぜられた。能登名跡志に、『昔は西方寺村にありて、丈六山西方寺というて、天台宗にて、三崎權現別當兼帶の寺なりしといへり、云々。利家公の御像・御代々の御位牌客殿に在り。』と記する。↓サイホウジ 西方寺(珠洲)

ミヨウジ 苗字 藩政の時、士分以下足輕に至るまでは皆苗字があり、それを苗字持と

稱することもあつた。町人は普通屋號であるが、特別の待遇を受けて苗字を稱へるものもあり、百姓では普通屋號もないが、十村の職に在るものは時代により苗字を許されたこともある。しかし非公式に町人は多く苗字を有し、百姓は屋號を有してゐた。僧侶は寺號を唱へて苗字はない。然るに明治三年九月に至つて、衆庶の氏を稱することを許し、四年八月職多非人の稱を廢して亦民籍に編入し、五年四月僧侶にも氏を許すを許された。

ミヨウシユウシユシン 明州珠心 石川郡曹洞宗大乘寺二十八代の住持。若狭の人、藤井氏。業を圓成信膺に受け、法を亘山道白に嗣いだ。嘗て分座を徳貫寺に領し、次いで永平寺に住み、元祿九年大乘寺に入り、十年寺地を城下から今の大乘寺山に移し、十二年退院の後慈現寺に入り、後淨閑寺を創立した。享保九年四月七日慈現寺にて寂、塔を放光といふ。

ミヨウジユジ 妙珠寺 珠洲郡鹿野(今野々江)にあつて、日蓮宗に屬する。貞享の書上に、『當寺開基は極樂寺と申眞言宗にて有之處、元龜三年住持日隨と申僧法華宗に歸服仕、則寺も改め法華宗に仕候由申傳候。』とあり、能登名跡考には、『妙住寺とて日蓮宗あり。此寺の番神は、飯田城山にありしを移したるといへり。』と見える。當寺に大井久兵衛直泰の安置した前田利家の畫像がある。

ミヨウシヨウ 明照 曹洞宗の尼。越前の人。初め能登の永光寺に瑩山紹瑾に謁して得度し、次いで加賀の祇陀寺に往きて祖繼大智に問ひ、居ること半歳の後また瑩山の許に歸り、後明峰素哲に見えて印可を受け、圓通庵

に住した。晩年加賀に寶應寺を營んでその開山となつた。

ミヨウジヨウカン 明星館 鹿島郡矢田に在つて、眞言宗に屬した。能登名跡志に、『此村に明星館とて同宗(眞言)あり。伊勢の内外の社あり。是は安倍宗任草創の寺となり。』とある。宗任のことは信じられぬが、明星館はこの神明宮の別當であつたもので、明治の後復飾して星澤右京といふた。その神社はもと矢田神明社と稱したが、今は矢田神社(舊日宮神社)に合併した。明星館の舊址には巨松があり、胸高周圍五米九を測る。昔は七尾灣内航路の標識ともなり、又丑の時詣を行ふ婦女が人かたを釘付する爲にも用ひられた。

ミヨウシヨウジ 妙正寺 金澤高道町に在つて、日蓮宗に屬する。山號は廣布山又は精進山。永仁二年日像能登瀧谷より石川郡大野に出て法談した時、俗家を改めて妙正寺と號したが、同四年尙玄阿闍梨は新たに一字を建立し、後天正中兵火に罹つたので、元和元年瀧谷の日條之を今の地に再興した。

ミヨウシヨウジ 妙照寺 河北郡野に在つて、日蓮宗に屬する。永享元年舟律師の創立であるが、後屢火災に罹つて衰廢し、明應三年日信之を重建した。

ミヨウシヨウジ 明正寺 羽咋郡百浦に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウシヨウジ 明照寺 鳳至郡輪島に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウシヨウジ 明證寺 石川郡徳光に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ミヨウシヨウジ 明證寺 河北郡室に在つ

て、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十三年十月寺號の公稱を許された。

ミヨウジヨウジ 名聲寺 石川郡大野に在つて、眞宗東派に屬する。もと金澤に居たが、明治四十三年一月今の所に轉じた。

ミヨウジヨウジ 妙成寺 河北郡種に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

ミヨウジヨウジ 妙成寺 (一)沿革(羽咋郡瀧谷)に在つて、日蓮宗に屬し、金榮山と號する。寺傳に、永仁二年日像の日乘を隨へて來た時、杖を地に樹て、若し活着したらばこゝに一字を創立せよと告げたが、後幾くもなく槐樹の嫩芽を生じた。日乘感に堪へず、普く募縁した所、柴原將監といふ者大に外護の力を振うてその望を達せしめた。これ即ち妙成寺で、將監は法光日慧と諡せられたと。かくて妙成寺は日像を初祖とし、日乘を二代とするが、その頃の沿革は餘り明らかでない。前田利家入國の頃には、十一代日充が住持であつたが、當時既に堂々たる伽藍になつてゐたことは、利家が天正十年十月十八日附の瀧谷寺掟を興へてゐることも知られる。後妙成寺は能登に於ける日蓮宗寺院の本山となり、京都妙顯寺に屬してゐた。能登名跡志に、『金榮山妙成寺は羽咋郡土田庄瀧谷村に在り。日蓮宗にて、永仁年中僧日像の開基、一國の大道場なり。寺領百二十石餘。中興利常公御母君壽福院殿御菩提所にして、諸堂御建立ありて、組物彫物等手を盡し、七堂伽藍づくり也。中にも香匠の名人山上何某の作れる五重の塔あり。境内に七坊あり。其外末院所々にあり。又寶物あまたあり。』と見える。寺領は